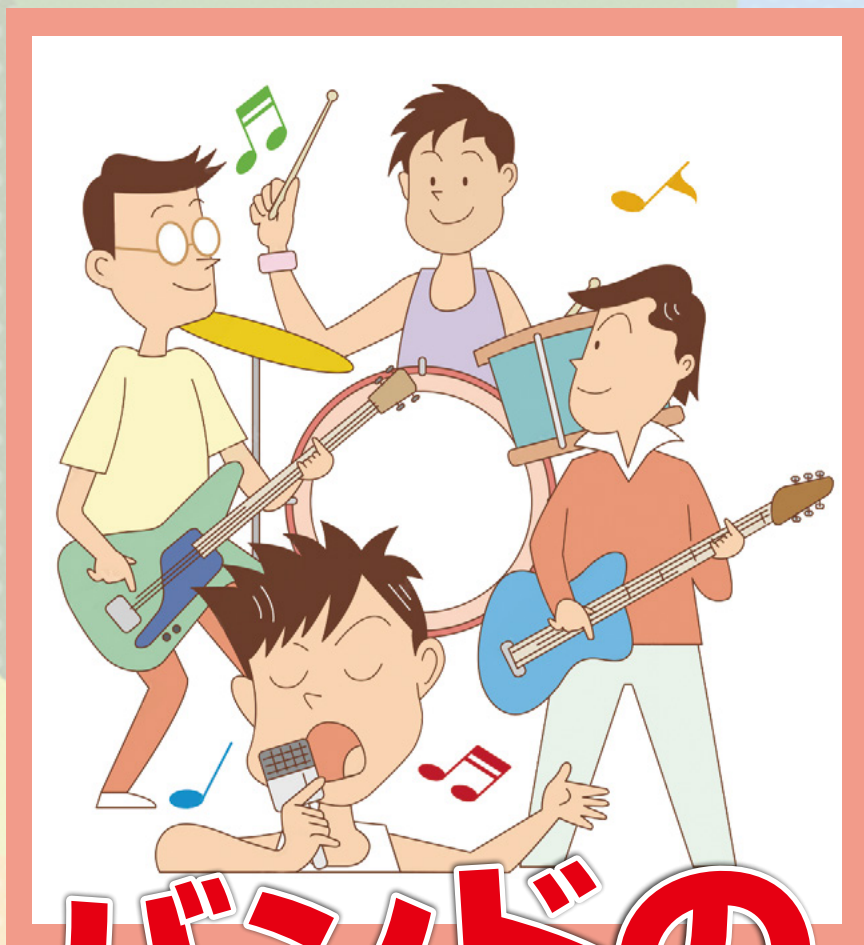




バンドの トリセツ

新入部員の皆さん、軽音楽部の活動を楽しんでいますか。学校にもよりますが、そろそろバンドを組んで初めての楽曲演奏に取り組んでいる頃ではないでしょうか。楽器演奏が初めてという人は自分のことで精一杯という感じかもしれませんが、「バンドを組む」ということに対しての心構えも忘れてはいけません。軽音楽部の活動を楽しむのもバンド次第。楽しく有意義な活動をしていくためのヒントをご紹介します！

バンドは TCC&E

バンドとは「複数で音楽を合奏するチーム」のことです。この言葉にバンドを行う時の大事にするべきポイントのすべてが表されています。「複数」で行うこと、「音楽を合奏」すること、「チーム」であること。この3つが理解できていればバンドはまとまっていきます。

学校によってバンドの組み方は様々だと思います。好きな人どうし、顧問の先生や先輩などと相談しながら、くじ引き…。どういった形であれ、これからどんなチームになっていくのか、どんなことが待っているのかドキドキワクワクしているのではないのでしょうか。中には固定バンドを組まずに、演奏会や大会があるたびにバンドを組み直すというシステムの学校もあるかもしれませんが、複数が集まって何かをする時には周りとの関係性を考えた行動や責任感が必要なことに変わりはありません。

バンドでの活動には「チームワーク

(協働)」「コミュニケーション(意思伝達)」「クリエイティビティ(創造力)」、そして「エンターテインメント(顧客満足)」が求められます。単に歌や楽器演奏の上達だけではなく、こういった部分も同時に学んでいけることが、軽音楽部という部活動でバンドをする最も大きなメリットです。

自分の音楽に対する気持ちや、こんなことしてみたいという夢を実現するために、その土台であるバンドを自分たちでしっかりと「運営」していきましょう。

バンドは複数で行うもの

部活動のオリエンテーションや説明会などで聞いているかとも思いますが、軽音楽部での数年間には様々なことが待っています。もちろん、学校によって活動の幅は違いますが、例えば校内の演奏会に出演、他校との合同演奏会に出演、大会やコンテストにエントリー、他県へ遠征、演奏会を企画&運

営…などのほか、クリニックや講習会に参加、オリジナル曲制作、動画制作、合宿、地域参加…と、てんこ盛りです。

それらのほとんどは、当然ながらバンドを組んで楽曲を演奏できることが大前提です。歌や楽器の練習、バンドでの合わせ練習、ライブ本番へ向けたステージングの練習など、普段の活動だけでもかなり大変です。しかし、それらの苦勞を乗り越えたからこそ味わえる達成感や喜びがあるわけなので、地道に頑張っていきましょう。

バンドを行う上で最も大変なことは「複数で行う」ことです。歌や楽器の習得は個人の努力次第なので、練習すれば上達するし、しなければうまくありません。勉強と同様、自分の行動がダイレクトに答えとして表れます。しかし、複数で何かをする場合、ましてや楽曲の演奏というアーティステックなことをまとめ上げなければならないバンドは、主張と妥協の繰り返しです。意見や行動がメンバー間で揃わないこともあります。自分もしっかりと意見を出し、他人の意見にもきちんと耳を



▲バンドは様々なことを自分たちで決めていく。コミュニケーションが大事



▲バンドは「チーム」。良いチームワークを作ろう



◀信頼関係で結ばれたバンド
を作って、いろいろなことに
挑戦していこう！

かす。そして1つの答えを導き出す…。言葉にするとかなり難しそうですが、これは社会に出てからも必要な大事なスキルです。

ちなみに、先輩や指導員の方、クリニックなどでプロミュージシャンから歌や楽器の練習方法やアドバイス、バンドをまとめるヒントなどをもらえることも部活動のメリットです。大いに活用しましょう。

バンドは集団行動！ 持つべき責任感とマナー

実をいえば、音楽云々の前にバンドで最も大事なことは、この「チームワーク」と「コミュニケーション」です。特に初心者の方は、歌や楽器演奏の上達ばかりを気にしてしまいがちですが、まずは良いチーム作りを目指すこと、お互いにコミュニケーションを取りながら迷惑をかけないように行動し合うことの方が重要です。そういうのはちょっ

と苦手だなあという人も、この機会に少しチャレンジしてみてください。

お互いの信頼関係を育むその第一は「時間厳守」です。これは、みんなで集まって何かをする時にはとても大切なことです。軽音楽部で行えるバンドでの練習時間は限られていると思います。遅刻や無断欠席は他のメンバーに大きな迷惑となります。

また、やっておくべきことをやってこない、というのも同様です。やってもできなかった、やれなかった、やらなかった…は大きな違いです。「チームの中の個」であることを意識した責任感、バンド活動にとってメンバー全員が持っていなければならない気持ちです。約束ごとが守られなければ物事は前に進みません。

近年は、SNSを使って情報共有をすることが多いと思います。ほとんどのバンドがLINEなどのモバイルメッセージングアプリでグループを作っているのではないのでしょうか。そういったチャットスタイルでのやり取りは誤解が生じや

すいので一定の気遣いが必要です。バンドメンバーは、家族や親友、クラスメイト、恋人や夫婦などとも違う特別な関係です。何か1つのものを作り上げる仲間どうしは不思議な絆が生まれます。しかし、そういった特殊な関係であるからこそ「親しき仲にも礼儀あり」で、お互いを気遣い合い思いやりのある行動がとても大切となってきます。

さあ、ますます堅い話に聞こえてきたと思いますが、そうなんです。バンドをするということは、皆さんが小学校の頃から散々言われてきた「集団行動」の根本と同じなのです。そしてそれは、将来社会人として活躍するために培っておくべき意識やマナーでもあります。

バンドは少人数のチームでコミュニケーションを取りながらクリエイティブなことを行い、聴いてもらう人に何かを伝える集団です。これは現代の日本人が社会に求められている姿そのものです。バンドで音楽を楽しみながら、社会人としてのスキルを身につけていきましょう。

各パートの役割

バンドは、ボーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードなどのパートに分かれています。複数のパートを兼ねている人もいたり、ギターやキーボードが2人いる、あるいはコーラスもするなど、バンドによって、あるいは演奏するジャンルによっても、それぞれのパートが担うべき役割は変わってきます。しかし、一般論としてみたパートの役割を知っておくだけで、自分がまず取り組むべきタスク（やるべきこと、課題）が見えてきます。

ボーカリスト



バンドの
スポークスマン

ボーカルはバンドの中で唯一声と言葉で表現するパートです。バンドの顔であり楽曲のメッセージを伝えます。ボーカリストが「こう歌いたい」というイメージを持っているとゴールが設定されて、バンドの演奏が早くまとまります。

- ①メロディを早く覚える。
- ②歌が入る場所（楽曲の構成）を正確に理解する。
- ③歌詞を間違えないようにする。覚えていないうちは「ラララ〜」で歌ったり歌詞カードをチラ見しても構いません。
- ④歌詞の意味や内容を考察して、感情を込めて歌う。

練習方法

- ・ひたすら楽曲を聴き込む
- ・音源を聴かずにエアーで歌ってみる
- ・音源のボーカル以外のパートをよく聴く
- ・ピアノでメロディを弾いてみる
- ・歌詞に出てくる言葉の意味を調べたり、どんなメッセージが込められているのかを自分なりに解釈する

バンド活動のコツ⑪

リーダーとバンマスは違う

バンドリーダーはメンバーをまとめ、顧問の先生とのやりとりが主な仕事です。バンドマスター（バンマス）は実際に演奏する時の「音楽監督」です。リーダーが兼ねてももちろん大丈夫ですが、楽器経験者がメンバーにいる場合はバンマスになってもらって、正しい演奏ができているかがいつもチェックしてもらいましょう。

ギタリスト



楽曲の
カラーを決める

和音や単音を弾き、様々な音色で楽曲のカラーを決めるパートです。主役にも脇役にもなるギタリストがしっかりと楽曲のドラマをイメージしていると目指す方向が見えやすく、こういった演出が正しいのかがはっきりしてきます。

- ①セクションごとに弾くことを覚える。難しいところは簡単にしたりしても OK。
- ②指版の移動、コードチェンジをスムーズにする。
- ③ドラムのリズムをよく聞いて合わせる。
- ④セクションごとに音色を考えて、必要があれば切り替える。

練習方法

- ・コードのルートと 6、5 弦の指版（フレット）を一致させる
- ・左手のストロークやピッキングを鍛える
- ・演奏する時は立って、リズムを感じて弾く
- ・楽譜やタブ譜だけでなく、耳でもニュアンスや強弱をコピーする

ベーシスト



アンサンブルの
接着剤

リズムと和音を支え、時にはボーカルのカウンターメロディも弾くパート。ベースは楽曲の構造を決定するアンサンブルの重要な役割をしています。他のパートのことも理解してバンドの接着剤になれるベーシストがいると強い。

- ①セクションごとに弾くことを覚える。難しいところは簡単にしたりしても OK。
- ②連指を考えて指版の移動をスムーズにする。
- ③ドラムのリズムをよく聞いて合わせる。
- ④フレー징の「歌い方」を大事にする。
- ⑤歌詞の意味や内容を考察して、感情を込めて歌う。

練習方法

- ・コードのルートと 4、3 弦の指版（フレット）を一致させる
- ・左手のフィンガリング（ピッキング）を鍛える
- ・演奏する時は立って、リズムを感じて弾く
- ・楽譜やタブ譜だけではなく、耳でもニュアンスやグルーブをコピーする

ドラマー



バンドの屋台骨

テンポとリズム、ダイナミクスアレンジを決定するパートです。他のパートを荷台に乗せたトラックのように合奏の土台を作るバンドの屋台骨です。ドラマーの演奏が安定してドラマチックにプレイできているとバンド全体がまとまります。

- ①セクションごとに叩くことを覚える。難しいところは簡単にしたりしても OK。
- ②演奏中はテンポキープすることを最優先。
- ③楽曲の構成、テンポ感をどのパートよりも早く覚える。
- ④フィルイン、キメ、シンコペーションなどを習得する。

練習方法

- ・パターンを手足のコンビネーションで覚える
- ・楽曲のテンポを調べてメトロノームを使って練習する
- ・楽曲に合った音量、ダイナミクスを考える
- ・楽譜やタブ譜だけではなく、耳でもニュアンスやグルーブをコピーする

キーボーディスト



楽曲を装飾して最終形に

ピアノでのバックিংからシンセサイザーでのリードフレーズまで幅広く演奏するパート。楽曲に合った音色、音量で合奏の最終的なドレスアップをします。キーボーディストに俯瞰力があると演奏が決まる。

- ①セクションごとに弾くことを覚える。難しいところは簡単にしたりしても OK。
- ②運指を考えて鍵盤の移動をスムーズにする。
- ③セクションごとに音色を考えて、必要があれば切り替える。
- ④フレー징の「歌い方」を大事にする。

練習方法

- ・鍵盤の場所を覚える
- ・和音の弾き方、両手の使い方を習得する
- ・楽譜やタブ譜だけではなく、耳でもニュアンスや強弱をコピーする
- ・ライブで立って演奏するなら、普段から立って練習する

バンド活動のコツ②

パートを掛け持つ

近年では、楽器を弾きながらボーカルをするスタイルが多くなっています。リードボーカルではなくても、コーラスをする場合や複数のバンドで違うパートをすることもあるかもしれません。役割が倍になるので大変ですが、できる限りいろいろなパートをやった方が総合的に成長します。余裕があれば挑戦してみてください！

バンド練習のコツ

普段の軽音楽部の活動でメインとなるのは「バンド練習」です。みんなで音を出す最も楽しい時間ですが、この貴重な時間をどう使うかで完成への速さが変わります。短い時間で効率良く、かつ効果的なバンド練習を目指しましょう！

バンド練習前の準備

セッティングを迅速に行うこと以外にも、効率良く練習するための方法はいくつかあります。バンド練習は練習場に入る前から始まっていると考えて、事前の準備をしっかりと行うことでかなりの時短になり、演奏する時間がたくさん確保できます。

初級編

まずは、練習内容を決めておくことがポイントです。バンド練習の当日、セッティングが終わってから「何やる？」では、やりたいこと、やれること、やるべきことが定まっていなく、せっかく集まったのに有意義な時間の使い方ができない可能性が高くなります。

イントロを仕上げよう、サビのコーラスを確認しよう…など、事前に細かく申し合わせておくことで各々が個人練習で何をしておくべきかが決まります。計画的な練習プランこそ、最も大切な事前準備です。練習終わりに、次の練習内容を決めておくとも良いかもしれません。

次に大事なことは、歌詞やメロディ、各楽器のフレーズは「覚えるもの」と

心得ておくことです。演奏中はバンドスコアや歌詞などは見ないようにして、間違えたところをスコアや歌詞カードで確認するようにしましょう。練習ですから間違っても構いません。間違ったところから不思議と覚えていくものです。

また、初心者に多いのがチューニングをあまり気にしていないことです。ギター、ベースのチューニングは狂いやすいのでこまめに確認&調整が必要です。事前にキーボードやチューナーが「A440Hz」が基本になっているかも確認しておきましょう。



▲練習内容を事前に決めておくことで効率的

たまにあるのが、コピーしようとしている楽曲が「変則チューニング」で演奏されていることです。特に、初心者の頃はレギュラーチューニングの楽曲を選んでおく方が無難ですが、やりたい楽曲が変則チューニングであれば、

バンド練習前の心得え

初級編

- 一、練習内容を決めておくべし！
- 一、フリーズ、運指、歌詞&メロディは覚えるものと思うべし！
- 一、チューニングをいつも気にするべし！
- 一、活用できるスマートフォンやタブレットを用意するべし！

中級編

- 一、歌に合わせたキーを見つけておくべし！
- 一、譜面（モドキでも可）を共有するべし！
- 一、バンド練習は個人練習ではないと思うべし！

先輩にやり方を教えてもらっておきましょう。

学校で使用が可能であれば、楽器や周辺機材の他に音楽用アプリの入ったスマートフォンやタブレットの活用がお勧めです。インターネットでコードや歌詞を調べる以外にも、演奏前にメトロノームアプリでテンポを確認したり、歌やコーラスの音程をピアノアプリで確認するといった使い方もできます。正しいテンポや音程は演奏をまとめるために重要な要素です。そして、練習はすべて録音して後で聞き返すよ

うにすることで、客観的に演奏を判断することができます。バンド練習後にはミーティングして意見交換をしましょう。

中級編

バンド練習が効率的になってきたら、もう少し頑張ってさらに効率良く練習できるようにしてみましょう。

まず、コピー曲の場合でもオリジナル曲を作る時でも、ボーカリストの声域に合わせた「キー設定」をしましょう。

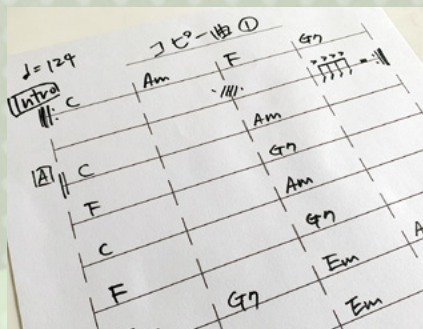
カラオケのキーチェンジのようにバンド演奏のキーを変えることです。専門用語では「移調」といいます。練習場で大声を出して決めても構いませんが、事前にボーカリストが試しておくスムーズです。キーを変えると楽器が演奏しにくくなる場合もありますが、どちらを取るかは話し合い次第です。

次に、なんちゃってで構わないので譜面を作って共有しましょう。小節数、コードネーム、リピートマーク、リハーサルマークがあれば十分です。五線紙ではなくても構いません。A4用紙2枚ほどにまとめたものをコピーして共有すると、バンド練習が早く進みます。

バンド練習は個人練習ではありません。自分のチェックも大事ですが、合奏がうまくいっているか、正しい方向に進んでいるかを確認し、アイデアを試していく場です。One For All, All For One の精神でみんなで演奏をまとめていきましょう。



▲スマートフォンやタブレットを活用しよう



▲譜面ではなくても共通の台本があると便利

セッティング

バンド練習のたびに教室などへアンプやドラムセットを毎回運ばないといけない学校もあると思いますが、部室や練習場に機材がセッティングしてある場合でも、自分の楽器や機材をつないだり調整をします。ポピュラーミュージックの楽器や機材は、電気を使ったり重かったりするので、ケガには十分注意する必要があります。先輩方のやり方を見て、各パートの正しいセッティングを覚えていきましょう。



小さなアンプは机やイスの上にビルドアップ！安定よく倒れないように。



立ち位置 普段のバンド練習は、なるべく丸くなって演奏した方がお互いの音がよく聞こえ、総音量も抑えられます。顔を上げたら目が合うことが理想。



ミキサーやアンプの電源のオンオフ、シールドケーブルの抜き差しは正しい順番でしないと故障の原因になります。



スピーカーにマイクを向けないように立ち位置やセッティングを考えよう。



音色 コピーの場合は原曲の音になるべく近づけるように意識しよう。特にギターとキーボードの音作りは大事。

音量 生楽器のドラムの音量に合わせてボリューム調整。でもボーカルが聴こえることが最重要！自分の音や周りの音が聴こえにくかったら、ボリュームを上げる前にアンプやスピーカーの向きを変えてみよう。



ボーカリストはなるべくモニタースピーカーを使う。